

BCP策定で社員の意識を変える — 株式会社 王子化学研究所 —

40年以上蓄積の染料合成技術

株式会社 王子化学研究所（代表取締役：高岡 和樹）は、現社長の祖父が昭和41年に染料製造業として創業。爾来、染料の合成技術・ノウハウの蓄積に努め、その蓄積した技術をもとに昭和58年には中間体や機能性色素の製造に着手、現在では電子材料・半導体・医薬品・塗料等さまざまな分野の製品や技術に利用されている。従業員10名の小規模企業ながら受託開発・生産、ならびに自社開発品の販売を行う異色のメーカーである。



本社：工場

当社は、「使われてこそその技術」をモットーにつねに顧客企業の発注者の立場に立って、未知の分野に挑戦する企業の研究開発段階からの受託合成の依頼を受けているが、社名に「研究所」を冠しているように、着手段階での徹底したヒヤリングをもとに、顧客の抱える課題や要望を洗い出し、それに沿った作業を進めるいわば顧客の『第2の社内実験室』としての機能を果たす役割を演じている。

顧客が使い易い会社であることを全従業員で追求していることが、当社の最大の「強み」といえる。



SUSヌッチェ

少量から中量の化合物の製造を実現

- ①創業以来50年、化合物の製造や受託合成に必要な設備で50l～500l容量の反応缶を組み合わせ、柔軟な製造を実現。
- ②設備の3S（整理・整頓・清掃）の徹底による品質管理
- ③研究経過や製造過程などの作業の「見える化」の徹底による製品に対する安全・安心の提供



機能性色素について

- ①機能性色素、その中でもシアニン色素、トリフェニルメタン色素の豊富なデータベースを有している。
- ②最大吸収波長400～1000nmの提案が出来る。
- ③ご要望があれば、シアニン色素、トリフェニルメタン色素以外のご提案も可能。

BCP策定への取り組んだ理由

当社の所属する化学関連業界は、製品の特性上特にBCPに関する関心は高く、かねてから取引先からはBCP対応の要望を受けていたので、その必要性については感じていたが、少人数のため業務に追われなかなか着手できずにいた。

2011年3月の東日本大震災では、幸いにも当社の被災は微少ですんだが、あらためて従業員や設備に対する防災対策の必要性を痛感した。

2015年9月、板橋区がBCP簡易モデルの企業への導入を勧めていることを知り、しかも訪問支援を実施するとのことで、この機会を利用してBCP策定を決意した。



株式会社 王子化学研究所
代表取締役
高岡 和樹氏

策定にあたり特に注力した点

①従業員の家族をも含めた安否確認、連絡方法等個人情報保護に細心の注意を払いつつ情報収集の手段については、重点的に検討し仕組みづくりを行った。

②従前から顧客からの視察等にいつでも対応できるよう製造設備についてのメンテナンスに万全を期していたが、その3S（整理・整頓・清掃）への意識を高める仕組みづくりを行った。

③BCP発動時、特に経営トップの専管事項となる資金調達に必要な関連文書の「見える化」を進め、一元的に管理できる体制を目指した。

④年に1度決算処理に併せて更新することを社内ルールとして決め、合わせてBCP訓練を実施することにした。これまでの防災訓練からさらに踏み込んだ訓練を継続し、万が一に備えたい。



BCP策定の感想・効果

BCPを策定して、その運用が今後の課題であり、その効果を云々するのは尚早であるが、当社は従業員10名の小世帯であるものの、受託研究を行った研究員が製造を見守る体制であり、それだけひとり一人が重い責任を担っているが、あらためて設備保全等に対する従業員の意識の一層の高まりを期待している。

また、BCPの策定とその運用により、自社の経営姿勢を顧客に訴求できることで、さらなる信頼を得たいと願っている。

事業者情報

事業者名	株式会社 王子化学研究所
本社所在地	板橋区蓮根3-24-8
設立	昭和41（1966）年11月
資本金	1,000万円
従業員数	10名
代表者	高岡 和樹
Tel	03-3969-3515
URL	http://www.ouji-lagaku.co.jp/